

令和7年度総合戦略事業検証シート

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	意欲ある人材が、本市で起業したいという希望をかなえることができるよう、これまでの創業セミナー等を引き続き実施するとともに、創業した事業者が安定的に事業を維持・継続できるようフォローアップ体制の構築を図っていきます。		
事業名	①創業支援事業	担当課名	商工観光課
事業内容	本市で「しごと」にチャレンジしたい個人等への支援を目的とした「創業セミナー」や「創業塾」（市商工会主催）を開催し、創業塾の所定の条件を満たした受講者は、特定創業支援等事業による支援を受けたことの証明を受けることができ、各種支援制度が活用できます。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
創業支援事業補助金（創業塾等の開催）	予算額	1, 500, 000	1, 300, 000	1, 300, 000	1, 300, 000	1, 300, 000	1, 300, 000
		最終予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額
	執行額	1, 500, 000	1, 169, 000	1, 232, 000	1, 300, 000	1, 300, 000	1, 300, 000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査)		⇒		17,600人 (R7)	
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	創業セミナー及び 創業塾の開催数	2回	KPI	2回	2回	2回	2回	2回	2回
			実績	2回	2回	2回	2回	2回	2回
		評価 (A～D)		A	A	A	A	A	A
	創業塾の参加者数	20人/年	KPI	20人	20人	20人	20人	20人	20人
			実績	24人	15人	24人	23人	31人	30人
		評価 (A～D)		A	D	A	A	A	A
	受講者のうち創業又は 事業拡大に繋がった数	4件	KPI	4件	4件	4件	4件	4件	4件
			実績	5件	3件	4件	3件	2件	4件
		評価 (A～D)		A	D	A	D	D	A
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。		日置市商工会と連携し、创业者の掘り起こしのために、創業を考えている方や創業に興味を持っている方などを対象に「創業セミナー」を開催。また、創業を本格的に考えている方や創業初期の方を対象に具体的な創業のための知識の習得を目的とした「創業塾」を開催した。							

取組の検証	事業実施における課題	課題に対する改善策
	※ KPI達成に向けた課題や問題となつて いる内容について記入してください。	※ 課題の対応策を記入してください。
	創業セミナー及び創業塾について、参加者及び創業者の数値目標は達成された。しかし参加者は確保できているが、創業まで至らないケースが多い。創業に至らない理由等の分析ができていない。	創業者数を増やすため、商工会などの関係機関と連携し、各種相談窓口の紹介や補助金制度等の周知を行う。また、創業後のフォローアップを図るため鹿児島県よろず支援拠点等関係機関と協力しながら定期相談会を開催するなどフォローアップ体制の整備を図る。

「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性

※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。

創業セミナー及び創業塾については、今、受講者が何を知りたいかを商工会等と連携しながら、常に内容の精査を行う。また、創業時の不安や創業してからのフォロー体制を様々な関係機関と連携を取りながら、事業者に寄り添った支援を図る。

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上 C: KPIに対して実績が89%~80%

B: " 99%~90% D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	若い世代や働き盛りにとって魅力ある職場を生み出すことができるよう、産業の振興と雇用の増加を図るための補助制度や民間事業者と行政との連携による新しい形の支援策により、地場産業の育成・強化を図ります。		
事業名	②新規創業者スタートアップ支援事業	担当課名	商工観光課
事業内容	本市の地域活性化と産業振興を図るため、市内で創業する者に対して創業に要する経費の一部を支援します。		

单位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
新規創業者スタートアップ支援事業費補助金（創業に要する経費の一部を支援）	予算額	2,500,000 最終予算額	2,500,000 当初予算額	2,500,000 当初予算額	2,500,000 当初予算額	2,500,000 当初予算額	3,057,000 最終予算額
	執行額	2,009,000	2,256,000	1,469,000	2,100,000	1,995,000	3,057,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査)		⇒		17,600人 (R7)	
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	(再掲) 受講者のうち 創業又は事業拡大に繋 がった数	4 件	KPI	4件	4件	4件	4件	4件	4件
			実績	5件	3件	4件	3件	2件	4件
		評価 (A～D)		A	D	A	D	D	A
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字(金額、人 数等)を用いて記入してくだ さい。	令和7年度新規創業者スタートアップ支援事業費補助金については、9事業者(うち受講4事 業者)が活用し、市内で創業した。 令和6年度：6事業者(うち創業セミナー・創業塾の受講者2事業者) 令和5年度：5事業者(うち創業セミナー・創業塾の受講者3事業者)								
取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	創業支援事業受講者のうち、4事業者が創業、受講者以外の事業者 も増加し、KPIは達成した。しかし未だ少ない状況であり、市 内における新規創業希望者や潜在的な起業ニーズの掘り起こしが 十分にできておらず、創業支援施策の情報が、必要とする層へ効 果的に届いていないと思われる。				今後も新規創業者の掘り起こしを行うために、商工会などの関係 機関と連携体制の構築を行い、創業希望者へ効果的な情報発信を 行う仕組みづくりを検討する。				
「取組の検証(上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。 創業支援事業との施策効果を高めるため、創業までのフォローアップ体制と併せて、創業後も安定的に事業を維持・継続できるようなフォ ローアップ体制(商工会、鹿児島県よろず支援拠点等との連携)も構築できるように検討を進めていく。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	地域経済の活性化及び地元雇用の推進を図るため、本市への進出を希望する事業者等への積極的なアプローチを図っていきます。また、企業立地促進補助制度や優遇制度の実施等により、市内外の事業者が工場等の新設や増設等による事業拡大と雇用の増加を図ろうとする際に、立地しやすい環境づくりに努めます。		
事業名	③工場等立地促進補助 (企業安定雇用創出補助金を含む)	担当課名	商工観光課
事業内容	市内に工場等を新設、増設又は移転する場合(一定の要件あり)に一定額の補助を行い企業等の規模拡大を支援します。 (企業安定雇用創出補助金:雇用に重点を置き、新增移設の企業が地元で新規雇用を行う場合(一定要件有、工場等立地促進補助との併用は不可)に補助金を交付します。)		

単位:円

当該年度の予算執行内容	区分	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
工場等立地促進補助金・小正嘉之助蒸溜所(株)樽貯蔵庫増設(R07.07.23)	予算額	29,671,000	0	60,000,000	57,152,000	52,421,000	30,000,000
	最終予算額		当初予算額	当初予算額	最終予算額	最終予算額	当初予算額
	執行額	29,671,000	0	22,709,000	12,152,000	52,421,000	15,000,000

基本目標における数値目標		区分		数値目標				
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査) ⇒ 17,600人 (R7)				
重要業績評価指標状況(KPI)	KPIの内容	基準値	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
	企業誘致・増設件数 (立地協定件数)	1件/年	KPI	1件	1件	1件	1件	1件
			実績	0件	6件	4件	2件	0件
		評価(A~D)		D	A	A	A	D
	補助金交付企業に係る新規雇用者数	5人/年	KPI	5人	5人	5人	5人	5人
			実績	10人	0人	14人	21人	29人
		評価(A~D)		A	D	A	A	A
			KPI					
			実績					
		評価(A~D)						
	当該年度の取組内容と事業効果	立地協定を締結した小正嘉之助蒸溜所(株)が生産するウイスキーを貯蔵するための樽貯蔵庫増設に係る補助金を交付した。ふるさと納税の返礼品として高い人気を得た。 ※ なるべく数字(金額、人数等)を用いて記入してください。						

取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。		課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。
	企業が新設・増設など設備投資に対し、物価高騰などの影響で当初の計画どおり進んでいない状況である。その際、企業の相談等に対応するため、県や関係機関と連携を図りながら情報収集が必要である。		県産業立地課と連携をとり、ヒアリング等を行いながら、ニーズに応えられるような国県補助金制度の周知等が出来るような体制整備を図る。

「取組の検証(上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。	
今後も引き続き既存の企業への動向把握に努めながら、事業拡大(増設)に意欲のある企業に対し、関係機関と連携を取りながら必要な支援に努めたい。 また企業誘致に関しては、民間事業者と物件情報など共有を行いながら、立地希望の企業に対し、提供できるように努める。	

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A: KPIに対して実績が100%以上 C: KPIに対して実績が89%~80%
B: 99%~90% D: 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	市内に住む高校生等が地元企業への理解や将来の就職に向けて考える機会を創出するため、地元企業との連携による合同企業説明会を引き続き開催します。		
事業名	④合同企業説明会の開催	担当課名	商工観光課
事業内容	地元高校生が地元企業への理解や就職に向けて考える機会を創出するため、高校生及び社会人等を対象とした合同企業説明会を開催して人材確保と地元雇用を目指す。		

单位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
送迎用バスリース代77,000円、会場設営リース料503,800円、連携中枢都市圏合同企業説明会負担金602,000円	予算額	695,000	1,231,000	870,000	862,000	1,037,000	1,183,000
		最終予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額
	執行額	558,914	288,900	620,329	752,950	887,300	1,027,200

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査)		⇒		17,600人 (R7)	
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値	 R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)	
	市内高校新卒全就職者に占める日置市内への就職者の割合（3ヶ年平均）	9.76%	KPI	10.00%	10.30%	10.50%	10.80%	11.00%	11.30%
			実績	8.20%	6.40%	6.13%	5.99%	6.07%	6.89%
		評価（A～D）		C	D	D	D	D	
	※参考 説明会参加の高校生がアンケートで「参考になった」と回答した割合	90.2% (H30)	KPI	—	—	—	—	—	—
			実績	93.80%	—	—	98.68%	—	—
		評価（A～D）		—	—	—	—	—	
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と 事業効果	・令和7年6月25日「企業の魅力説明会」高校就職指導担当者13人参加、企業39社参加 ・令和8年1月12日「連携中枢都市圏4市合同企業説明会」日置市12社参加、135人参加 ・令和8年2月5日「日置市異業種交流懇話会と吹上高校生との交流会」 工場見学：高校生65人、企業7社。 ・令和8年2月25日「しごと発見！高校生のための合同企業セミナー」 高校2年生143人参加、企業43社参加。								
取組の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。			課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。					
	市内企業は、若年層に限らず人材確保が困難になっている。地元雇用を定着させるためには、中高生向けに職場体験など直接地元企業と交流するキャリア教育の実施が必要である。			「企業の魅力説明会」「異業種交流懇話会と吹上高校との交流会」「合同企業セミナー」など様々な機会を契機に高校と企業との情報交換・工場見学や交流の場を有効活用する。高校生から企業情報の取得に関するアンケート結果を企業に情報提供を行い、企業の採用力向上に繋げる。また地元企業について知ってもらうため、令和8年度に県内の小中学生を対象とした工場見学バスツアーを実施する。					
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
かごしま連携中枢都市圏及び地元企業と連携しながら、企業セミナー、企業面談会及び企業の工場見学などの機会を継続的に実施していく。また企業間交流の更なる促進を狙い、企業の階層別に研修等を実施し、企業が抱える課題を把握して解決に向けて取り組みを進めていく。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上	C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90%	D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	生産者等の高齢化や後継者不足により1次産業の従業者数は減少傾向で推移しており、基幹産業として本市の経済を支えている1次産業は、危機的な状況を迎えています。このような状況を踏まえ、将来を担う意欲的な人材を確保するため、後継者及び新規就業者に対する支援を行います。		
事業名	⑤農林水産業の後継者、新規就業者及び担い手農家への支援	担当課名	農林水産課
事業内容	農林水産業の後継者や新たに就業する者に対して、技術の習得から就業後の定着までの期間（後継者1年・新規就業者2年）、生活費や所得の支援（一定額）を行います。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
R 7 年度実績	予算額	22, 842, 690	21, 075, 000	26, 985, 000	31, 795, 000	31, 125, 000	14, 730, 000
農業次世代人材投資事業 夫婦 1 組 2, 250, 000円 単身9名 10, 500, 000円		最終予算額	当初予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額
新規就漁者支援事業 夫婦 1 組 1, 980, 000円	執行額	22, 842, 690	24, 075, 000	26, 937, 600	31, 605, 700	31, 125, 000	14, 730, 000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査)		⇒	17,600人 (R7)		
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	農林漁業の新規後継者、 新規就業者数	10人/年	KPI	10人	10人	10人	10人	10人	10人
			実績	3人	7人	6人	5人	0人	4人
	農林水産業就労相談会 等の参加回数	評価（A～D）		D	D	D	D	D	D
		2回/年	KPI	2回	2回	2回	2回	2回	2回
			実績	13回	7回	6回	2回	2回	2回
	評価（A～D）		A	A	A	A	A	A	
		KPI							
		実績							
	評価（A～D）								
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、 人数等）を用いて記入して ください。		新規就農希望者を受け入れるため関係機関と連携し確保・育成に向けた支援体制のあり方等を検討し、農業指導士をはじめ、関係機関と就農状況を確認し伴奏支援をしていくこととした。また、農林水産業就労相談会を開催して新規就農者の確保に努めた。							
取組の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。					課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。			
	新規就農希望者にとって、ハウスの初期投資額は就農を選 択する上で大きな不安要素となるため、新規参入者を増や す取組みの1つとして空きハウスの情報共有体制、ハウス整 備等に着手していく必要がある。					新規就農希望者に空きハウスを紹介（マッチング）できる体 制を整備するため、農業者へ将来の農業経営をどうしてい くつもりか、規模縮小を考えている場合はハウスの処分はど うするつもりかなど、農業者の意向を把握するためヒアリン グ調査を実施する。			
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
農業者へのヒアリング調査で得た情報を整理し、新規就農希望者に空きハウスを紹介して初期投資額の負担を軽減することで 新規就農者の確保を図っていく。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上	C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90%	D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	農林水産業を強い産業とするために、農業では新規作物の開拓支援や「いちごの農業ICTツール」の活用に加え、畜産や水田営農へも導入を検討することでスマート農業（Society5.0）の推進による省力化・技術継承を図ります。		
事業名	⑥新規作物の開拓支援	担当課名	農林水産課
事業内容	1次産業の活性化や後継者、新規就農者の生産意欲の向上等を目的として、地域に適した新規作物の生産及び拡大を支援します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
薬草日置栽培部会運営補助	予算額	100,000	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
	執行額	100,000	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標				
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査) ⇒ 17,600人 (R7)				
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
	薬草作物の新規農家数	7人	KPI	3人	3人	3人	3人	3人
			実績	4人	3人	2人	3人	1人
		評価(A～D)		A	A	D	A	D
			KPI					
			実績					
	評価(A～D)							
	当該年度の実績内容 と事業効果 ※ なるべく数字(金額、人数等)を用いて記入してください。	3カ年夏の高温の影響により、収穫量が減少したことで新規耕作者の増加は計画どおりに図れなかった。ミシマサイコはこれまで、面積拡大を主とした取組としていたが、収量の大幅な減少からR7より反収の向上を主とした取組に切り替えて取り組みを実施した。						

取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。		課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。
	○根の出荷量は増加しているが、夏場の高温により、種の収穫量が著しく減少しているため、収益性が鈍化している。新規農家の参入や既存農家が安定して農業を続けるための『収益モデル』の確立が課題となっている。		○高温に対応可能な栽培技術を習得するため、先進地から2カ月に1回、先進地の指導者から技術指導を受ける。

「取組の検証(上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。	
○安定した生産体制を構築することで、新規農家が定着できる収益モデルの確立を目指す	

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A: KPIに対して実績が100%以上 C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90% D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	農林水産業を強い産業とするために、農業では新規作物の開拓支援や「いちごの農業ICTツール」の活用に加え、畜産や水田営農へも導入を検討することでスマート農業（Society5.0）の推進による省力化・技術継承を図ります。		
事業名	⑦農業IoTの活用	担当課名	農林水産課
事業内容	農業IoTを活用し、篤農家の栽培技術を共有し、新規就農者の確保と生産性の向上を図ります。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
—	予算額	— 最終予算額	— 当初予算額	— 当初予算額	— 当初予算額	— 当初予算額	— —
	執行額	—	—	—	—	—	—

基本目標における 数値目標		区分		数値目標						
		市内事業者従事者数 （経済センサス）		17,060人 （H28活動調査）		⇒ 17,600人 （R7）				
重要業績評価指標状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）	
	いちご若手農家の収量 （単収）をいちご部会全 体平均まで向上	3,100kg	KPI	3,100kg	3,150kg	3,200kg	3,250kg	3,250kg	3,300kg	
			実績	3,757kg	3,930kg	3,891kg	4,190kg	4,140kg	R8.9算定予定	
		評価（A～D）		A	A	A	A	A	—	
	いちご部会全体の単収 を5％アップ	209百万円	KPI	—	220百万円	—	—	—	—	
			実績	—	330百万円	—	—	—	—	
		評価（A～D）		—	A	—	—	—	—	
	いちご部会全体の販売 高15％増	209百万円	KPI	—	—	241百万円	—	—	—	
			実績	—	—	386百万円	—	—	—	
		評価（A～D）		—	—	A	—	—	—	
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人 数等）を用いて記入してくだ さい。		e-kakashiを活用することでデータの「見える化」と科学的根拠に基づいた栽培管理に努めた。 また、オリーブ栽培では、引き続き生産技術の動画配信サービスを提供することにより、栽培 技術の向上に努めた。								
取組 の 検 証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。					
	e-kakashiで環境データを取得しているが、ハウス環境制 御機器と連動しておらず、データを活用した自動的な環境 管理ができていない。				現時点では自動連動が難しいため、e-kakashiのデータを基にし た手動管理を徹底しつつ、将来の自動環境制御に向けた機器の仕 様確認を進める。同時に、e-kakashiで取得した温度、湿度等の 環境データを日常の栽培管理へ積極的に活用し、環境変化を早期 に把握することで適期の換気や保温管理を実施する。					
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。										
環境制御機器との連携についても検討し、より効率的かつ安定した栽培管理体制の構築を目指す。										

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%

B： " 99%～90% D： " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	農林水産業を強い産業とするために、林業では施業困難とされている搬出作業の改善のための必要な林道整備を実施します。		
事業名	⑧日置市らしさを感じる魅力と活力あふれるまちづくり計画（林道）	担当課名	農林水産課
事業内容	国道３号・270号を中心に主要地方道や県道にアクセスする市道24路線及び林道２路線の道路拡張等を行うことにより、観光資源を結ぶ効率的な道路網のネットワーク化をはじめ、森林施業における効率化を図ります。		

單位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
林道矢筈に係る土地購入費	予算額	4,620,000	81,996,000	132,227,000	109,156,000	41,614,000	128,000
		最終予算額	最終予算額	最終予算額	当初予算額	当初予算額	最終予算額
	執行額	4,620,000	22,553,000	64,378,415	62,757,420	36,045,936	0

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 （経済センサス）		17, 060人 （H28活動調査）		⇒	17, 600人 （R7）		
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）
	林業の素材生産量	16, 500㎡	KPI	16, 600㎡	16, 700㎡	16, 800㎡	16, 900㎡	17, 000㎡	17, 100㎡
			実績	6, 389㎡	15, 063㎡	29, 413㎡	34, 117㎡	29, 409㎡	R8. 11算定予定
		評価（A～D）		D	B	A	A	A	
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
			KPI						
			実績						
	評価（A～D）								
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人 数等）を用いて記入してくだ さい。		林道矢筈線に係る土地購入費につきましては、契約締結に必要な関係書類の取りまとめにおいて、 地権者側の諸事情により想定以上の不測の日数を要したことから、当該年度内の予算執行を見送った。							
取組 の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	近年、林業に従事する人の数が減少し、高齢化が進んでいる。これにより、熟練した技術の継承が困難になり、後継者不足が深刻化している。また、高性能林業機械が入らず搬出の際に迂回する現状にあるため、木材搬出が非効率化しており早急な林道整備が求められている。				令和6度4月にかごしま林業大学校が開校しており、本市もかごしま林業大学校サポートチームのメンバーとなっている。林業後継者の育成に向けて、林業大学校や県、その他関係機関との連携を図っていく。また、林道整備により高性能林業機械等を使用した効率的かつ低コストな施業により林業・木材産業の生産活動の向上を図る。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
整備に向け計画的に進めている。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A : KPIに対して実績が100%以上	C : KPIに対して実績が89%～80%
B : " 99%～90%	D : " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標③「訪ねてよし ひおき」～ひおきへの新しい人の流れをつくる～		
施策の方向性	公共交通機関等で県外からもスムーズにアクセスできる立地条件にありますが、観光客の流れが集中して物産館等に留まっていることから、主要地方道にアクセスする市道路線の拡張等を行うことで、効率的な観光施設ネットワークを構築します。		
事業名	⑧日置市らしさを感じる魅力と活力あふれるまちづくり計画（市道）	担当課名	建設課
事業内容	国道３号・270号を中心に主要地方道や県道にアクセスする市道24路線及び林道２路線の道路拡張等を行うことにより、観光資源を結ぶ効率的な道路網のネットワーク化をはじめ、森林施業における効率化を図ります。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
令和6年度繰越において、市道5路線の工事等執行し、令和7年度現年においては市道1路線の委託等を執行した。	予算額	590,000,000	1,055,349,000	749,241,000	449,429,000	352,157,000	407,211,000
	最終予算額		R2繰越+当初予算額	R3繰越+当初予算額	R4繰越+当初予算額	R5繰越+当初予算額	R6繰越+当初予算額
	執行額	95,742,750	536,091,067	554,764,038	334,267,235	227,949,021	97,245,500

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		観光地・観光施設 年間来訪者数		231万人 (R1)		⇒		252万人 (R7)	
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	（再掲）観光地・観光 施設年間来訪者数	231万人 (R1)	KPI	244万人	246万人	247万人	249万人	250万人	252万人
		実績	205万人	209万人	206万人	241万人	236万人	235万人	
	評価（A～D）		C		C	C	B	B	B
	（再掲）過疎地域移住 定住促進事業利用者の うち移住者数	63人/年	KPI	74人	74人	74人	74人	74人	74人
		実績	87人	118人	135人	121人	101人	74人	
	評価（A～D）		A		A	A	A	A	A
			KPI						
		実績							
	評価（A～D）								
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人 数等）を用いて記入してくだ さい。		令和7年度において、国道3号及び270号を中心に、観光周遊ルートやアクセス道の道路拡幅等 の整備を進めた。観光入込客数はコロナ禍前の水準に戻りつつあり、移住・定住者も目標値を 達成し、引き続き高い水準で推移している。 R7計画路線：7路線（伊集院地域のイチゴ生産拠点と県道徳重横井鹿児島線を結ぶ路線の整 備、東市来地域の県道江口長里線と国道270号を結ぶ路線、日吉地域の国道270号と幹線市道を 結ぶ路線の整備、吹上地域の県道永吉入佐鹿児島線へのアクセス道路等の整備）							
取組 の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	当該計画において、美山インターチェンジのフル化を計画 しているが、市の財政状況を鑑み、着手延期を見込んでい る。				事業実施路線の選択と集中を図り、観光周遊ルートやアク セス道路の拡幅整備を確実に実施し各指標に対する目標達 成を目指す。				

※ 「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性
 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。

未改良区間の解消に向け、個別路線の計画について見直しを行う。

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	地域に根付く産品や農作物等に磨きをかけ、付加価値を高めていく取組を事業者・関係団体等と協働で行い、本市独自の「ひおきブランド」の確立を目指します。この取組を通して、日置市の認知度の向上に繋げるとともに、市内業者等による商品開発や、市外・海外市場への販路開拓及び販路拡大を図ります。		
事業名	⑨商品開発支援事業	担当課名	商工観光課
事業内容	日置市らしい商品の開発により、ひおきブランドを確立し、地域活性化及び産業の振興を図るため、本市の特色を生かした商品の開発を行う事業者に対し、その商品開発等に係る経費の一部を支援します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
商品開発支援事業費補助金 (商品開発等に係る経費の一部を支援)	予算額	1,000,000 最終予算額	1,000,000 当初予算額	1,000,000 当初予算額	1,000,000 当初予算額	1,000,000 当初予算額	1,000,000 当初予算額
	執行額	283,000	943,000	761,000	276,000	737,000	632,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 （経済センサス）		17,060人 （H28活動調査）		⇒		17,600人 （R7）	
重要業績評価指標状況 （KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）
	新商品開発件数 （商品開発支援事業費 補助金活用件数）	2件/年	KPI	2件	2件	2件	2件	2件	2件
			実績	2件	5件	4件	3件	4件	4件
		評価（A～D）		A	A	A	A	A	A
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、 人数等）を用いて記入して ください。	令和7年度商品開発支援事業費補助金については、4つの事業者が活用し、本市の特色を生かした商品開発を行った。鹿児島県よろず支援拠点と連携してひおき特産品開発アカデミーを開催し（全7回）、事業者のスキルアップと商品のブラッシュアップを支援する取組を実施した。また特産品コンクールの受賞者を中心とした商談会を開催した。								
取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。					課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。			
	事業の趣旨など周知が不足しているため広く広報する必要がある。また、金銭的支援だけでなく、商品開発に対する基礎知識を学ぶ場の提供や、商品開発や商品のブラッシュアップに対する伴走支援も必要である。					多くの事業者が本補助金を活用し、新商品開発による販路拡大や売上向上等につながる取組の一助となるよう、関係機関とも協力し事業の周知を図る。			
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
成果・費用対効果を維持し、継続して実施していく。また、開発だけではなく、その後の販路拡大についても、関係機関と連携しながら伴走型支援に取り組む。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A : KPIに対して実績が100%以上 C : KPIに対して実績が89%～80%

B : " 99%～90% D : " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	地域に根付く産品や農作物等に磨きをかけ、付加価値を高めていく取組を事業者・関係団体等と協働で行い、本市独自の「ひおきブランド」の確立を目指します。この取組を通して、日置市の認知度の向上に繋げるとともに、市内業者等による商品開発や、市外・海外市場への販路開拓及び販路拡大を図ります。		
事業名	⑩ひおき特産品コンクール	担当課名	商工観光課
事業内容	多様化する消費者ニーズに対応した売れる商品づくりを促進するため、既存の特産品や新たに開発・製造・改良された商品のコンクールを開催します。		

單位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
ひおき特産品コンクール事業 商談会	予算額	—	—	—	1,411,000 当初予算額	1,380,000 当初予算額	1,300,000 当初予算額
	執行額	—	—	—	1,354,700	1,338,000	1,300,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 （経済センサス）		17,060人 （H28活動調査）		⇒	17,600人 （R7）		
重要業績評価指標状況 （KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）
	コンクールへの出品数	0品	KPI	—	—	—	5品	5品	5品
			実績	—	—	—	25品	28品	—
	評価（A～D）		—	—	—	A	A	—	
	本コンクール出品商品の うち県特産品コンクール への出品商品数	0品	KPI	—	—	—	1品	1品	1品
			実績	—	—	—	1品	2品	—
		評価（A～D）		—	—	—	A	A	—
			KPI						
			実績						
評価（A～D）									
当該年度取組内容と 事業効果		令和7年度より、事業者の継続的な商品開発を促す観点から毎年開催していた特産品コンクールを隔年開催することとし、第1回、2回の受賞者を中心に、日本国内の有力バイヤーと効果的な商談機会を提供することにより特産品の販路拡大を図った。バイヤーにも、商品の魅力を現地で直接体験してもらうことで、深い理解と信頼関係の構築の促進を図った。							
※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。									

取組の検証	事業実施における課題	課題に対する改善策
	※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。	※ 課題の対応策を記入してください。
	商品開発や出品意欲を向上させるため、出品するメリットや販路拡大のためのPR方法について模索する必要がある。	市内外の多くの人にコンクールや受賞商品について知ってもらうため、ポスターや市のホームページの他にも、SNSによるPRを行うことで、幅広い年齢層への周知を図る。

※ 「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性
 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。

ふるさと納税の申込増加や販路拡大等、直接事業者にメリットとなるPR方法を模索した上で実行に移し、更なる日置市の特産品を市内外にPRを行っていく。

関係機関と連携し、商品開発に対する支援を行い、商品開発への意欲向上を図っていく。

コンクールの開催方法を検討し、事業者が参加しやすいコンクールを目指す。

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標①「働いてよし ひおき」～安心して働ける安定した「しごと」を創出する～		
施策の方向性	オリーブ栽培は、年々収穫量が増加していく中で搾油施設の設置をはじめ、鹿児島オリーブ(株)の開業により6次産業化(生産+加工+流通)が図られています。今後、搾油量を安定的に供給するための生産量の増加に努めつつ、消費を喚起するイベントの開催や新商品開発や搾油時に排出されるオリーブミール(搾りカス)の再利用についても、畜産農家、各関係機関団体等と連携・協力し、商品化に向けて検討していきます。		
事業名	⑫オリーブ産業プロジェクト	担当課名	農林水産課
事業内容	新たな産業創出として始まったオリーブを生産・加工・流通までの6次産業化の更なる体制を構築させることで、担い手農家のための基幹作物の位置付けをはじめ、新商品開発やイベントを通じた消費喚起による地域経済の活性化を図ります。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
試験圃場・生産強化圃場の管理、部会運営補助、小豆島からの講師謝金	予算額	3,889,000	14,680,000	9,247,000	3,387,000	3,577,000	4,862,000
	最終予算額						
	執行額	3,540,000	10,586,000	8,701,898	2,752,976	3,219,395	4,504,239

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市内事業者従事者数 (経済センサス)		17,060人 (H28活動調査)⇒17,600人 (R7)					
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	オリーブの植栽本数 (R 5 まで)	650本	KPI	720本	790本	860本	930本	—	—
			実績	362本	74本	52本	0本	—	—
		評価（A～D）		D	D	D	D	—	—
	オリーブの収穫量 (R 5 まで)	4,020kg	KPI	5,832kg	7,644kg	9,456kg	11,268kg	—	—
			実績	499kg	2326kg	2,460kg	4,594kg	—	—
		評価（A～D）		D	D	D	D	—	—
	オリーブ栽培農家数 (R 5 まで)	10人/年	KPI	10人	10人	10人	10人	—	—
			実績	11人	2人	4人	0人	—	—
		評価（A～D）		A	D	D	D	—	—
	オリーブの出荷量 (R 6 から)	2460.7kg (令和4年度)	KPI	—	—	—	—	3,200kg	3,400kg
			実績	—	—	—	4,594kg	1,328kg	196kg
		評価（A～D）		—	—	—	—	D	D
	オリーブ出荷農家数 (R 6 から)	27人 (令和4年度)	KPI	—	—	—	—	50人	50人
		実績	—	—	—	31人	27人	12人	
評価（A～D）		—	—	—	—	D	D		
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。		R6年度に着果負担がかからなかったことで着花数は最も収穫量が多かった年（R5年度）と同等であったが、受粉時期の集中した降雨により着果が阻害された。また、5,6,8月の月の降水量は400mmを超え、湿度が高い状態が続いたことで病害（炭疽病）の発生も重なったため、収穫量は前年度1,328kg対して196kgと前年度比86％減となった。オイルの搾油については前年度の3.52％から5.10％と増加した。また、収穫の可能性はあるが、高齢化等により栽培管理が困難と判断される市試験ほ場周辺のほ場3か所（面積74a：296本）を生産強化ほ場に指定し、規模拡大意向を示す農業生産法人（㈱春一番）へ栽培管理のあっせんを行った。管理を受託した㈱春一番の社員2名に対し、技術指導の伴走支援を行い、受託環境を確保した。							
取組の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	・ 受粉時期の降雨により、着果が阻害されたため、雨対策を実施する必要がある。 ・ 高齢化による栽培管理の継続が課題となっている（特に病害虫対策、剪定）。				・ 受粉時期をコントロールできるよう、根切り試験や根域制限栽培試験を実施する。 ・ また、雨対策として、ハウスの屋根掛け試験を実施する。 ・ 個別の巡回指導を定期的に行い、ゾウムシによる枯れと課題となっているせん定技術の理解促進に努めるとともに、農地所有適格法人等との連携を図り、持続可能な生産体制の構築を図る。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
総会時等に出荷者と試験ほ場の樹1本あたりの平均収量や最高収量を年次ごとに示し、年生やせん定などの栽培管理による実態を明らかにするとともに、出荷実績がある方へは個人ごとの樹1本あたりの収穫目標を設定することで、出荷量の増加につなげていく。㈱春一番に対し、栽培技術習得のための伴走支援を行い、受託体制を整える。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A: KPIに対して実績が100%以上 C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90% D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを推進するため、妊娠・出産・産後・子育てなどのきめ細かな相談体制の充実を図るとともに、不妊に悩む夫婦の精神的及び経済的負担の軽減を目的とした不妊治療費の一部助成や出産後の育児支援を目的とした宿泊型産後ケア施設の一部助成のほか、予防接種スケジュールの確認や子育て情報を配信する子育てワンストップサービスにより、妊娠から出産、育児までの一体的なサポート体制で支援します。		
事業名	⑬母子保健事業（不妊治療関係事業）	担当課名	健康保険課
事業内容	・安心して子どもを生み育てることのできる環境づくりを推進するとともに、不妊に悩む夫婦の精神的負担及び経済的負担の軽減を図るため、不妊治療の助成を行います。 ・産後の体調や育児に不安のある母子を対象に、心身のケアや子育て環境を整えるノウハウなどの支援を受けられるよう助産所等の入所費用の一部助成を行います。		

単位：円							
当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
【母子保健事業】 不妊等治療費助成事業 産後ケア事業（宿泊・日帰り・訪問）	予算額	6,982,000	8,100,000	10,130,000	11,020,000	10,980,000	14,335,000
		最終予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算	予算現額
	執行額	5,362,340	6,238,866	3,564,940	7,322,350	8,832,900	12,799,550

基本目標における 数値目標			区分		数値目標					
			合計特殊出生率 （5年平均）		1. 62 (H29)			⇒	1. 68 (R7)	
重要業績 評価指標状況 （K P I）	KPIの内容		基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	※参考 母子保健事業 での不妊治療件数	68件 (H30)	KPI	—	—	—	—	—	—	—
			実績	68人	65人	49人	79人	76人	77人	
		評価（A～D）		—	—	—	—	—	—	
	※参考 母子保健事業 利用者の妊娠率	44. 1% (H30)	KPI	—	—	—	—	—	—	—
			実績	44. 9%	55. 0%	55. 0%	64. 6%	44. 7%	51. 9%	
		評価（A～D）		—	—	—	—	—	—	
			KPI							
			実績							
評価（A～D）										
当該年度を取組内容と 事業効果		【不妊治療】 ・妊娠率：妊娠に至った件数40件/77件＝51. 9% ・治療をしている対象者のべ97人（実人数77人）に対して補助を行った。治療が高額となる先進医療に対しても助成しているため、不妊に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図ることができた。 【産後ケア】 ・令和6年度から5回目までの利用料を無料としたところ、各サービスにおいて利用者が増加した。特に、宿泊型はR6年度の2倍以上の増加となった。産後ケアの利用料を無料にしたことで、産後ケアを利用しやすい体制となり、産後の心身のケアや育児指導を行うことができた。								
※なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。										

取組の検証	事業実施における課題	課題に対する改善策
	※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。	※ 課題の対応策を記入してください。
	【不妊治療】 窓口申請のみの手続きとなっているため、治療終了後すぐに申請できず、年度末に申請が集中している。 【産後ケア】 5回まで無料にしたことで、利用者が増加し、育児不安に対する支援が行き届きやすくなった。一方で、今後は産後ケア施設の「数」と「質」の確保が課題となる。	【不妊治療】 働きながら治療を受ける方の利便性の向上や負担軽減を図るため、窓口への来庁を不要とするオンライン申請を検討していく。 【産後ケア】 引き続き利用者負担の軽減を図り、利用を促進するとともに、利用者アンケート等を通じてニーズを把握し、今後の産後ケア施設の「適切な規模（数）」の確保や「サービス内容（質）」の充実に向けた検討を行う。

「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性

※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。

仕事と治療を両立する当事者の時間的・心理的負担を軽減するため、窓口になくても申請できるようにオンライン申請を検討していく。また、オンライン化によって審査業務を迅速化し、今よりも早く助成金を支給し経済的負担の軽減を図っていく。

産後ケアについては、引き続き利用者負担の軽減を図り、施設などのサービス内容やケアの質にばらつきが出ないように、アンケートを活用し、育児不安に寄り添う「質の高いケア」を均一に提供できる体制を整え、すべての母親が安心して産後を過ごせるように推進する。

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上 C: KPIに対して実績が89%~80%

A : RPIに対して実績が100%以上 C : RPIに対して実績が89%~99%

B : " 99%~90% D : " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	赤ちゃんの誕生を祝い、今後の健やかな成長を願うことを目的として、地元企業との連携による「マタニティボックス」を配布することで、連携企業との付加価値の高い商品開発につなげていながら、本市の住みやすさ満足度向上を図ります。		
事業名	⑭マタニティボックス配布事業	担当課名	健康保険課
事業内容	赤ちゃんの誕生を祝い、今後の健やかな成長を願うことを目的として、地元企業と連携し赤ちゃんグッズ等が入ったマタニティボックスを配布することで子育てしやすいまちづくりを目指します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
赤ちゃんが生まれた世帯に、子育てに必要な実用品等を詰め合わせた「マタニティボックスひおきコウノトリ便」を配布	予算額	7,000,000	7,000,000	7,000,000	5,000,000	5,000,000	4,400,000
	執行額	7,000,000	7,000,000	7,000,000	4,000,000	4,400,000	4,382,400

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		合計特殊出生率 (5年平均)		1.62 (H29)		⇒	1.68 (R7)		
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	子育て世代（25～39歳） の人数（住民基本台帳） ※毎年1月1日基準	6,233人	KPI	6,046人	5,865人	5,689人	5,518人	5,352人	5,191人
			実績	6,057人	6,885人	5,730人	5,564人	5,405人	5,216人
		評価（A～D）		A	A	A	A	A	A
	マタニティボックスの満足度（満足・やや満足と回答された方の割合）	90.00%	KPI	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
			実績	97%	93%	94%	97%	93%	93%
		評価（A～D）		A	A	A	A	A	A
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と事業効果 ※なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。		主に、出生届出時にマタニティボックスを直接配布した。3～5か月時にアンケートを行い、142人が回答。132人が「満足・やや満足」、3人が「どちらでもない」、1人が「不満」という回答をもらった。 品物の意見については個人差があるが、自由意見では日置市として子育てに対して応援したいという気持ちがうれしいといった喜びの声等ももらっている。							

取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。		課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。
	満足度も高く、今後の継続を求める声もある一方で子育て世帯のニーズは多様化しており、物資の内容や提供方法について、常に現状に即した見直しが必要である。		アンケートの内容をもとに、新生児用肌着を歯固めに変更し、中身の一部変更を行った。

「取組の検証(上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。	
赤ちゃんの誕生を心から祝福し、すべての家庭が安心して子育てをスタートできるよう、今後もマタニティボックスの配布事業を継続していく。出産直後の家庭にマタニティボックスを渡すことを機に、新生児訪問や育児相談、各種健診などの伴走型支援をスムーズに展開し、妊娠期からの切れ目ない支援体制を確立するとともに、地域全体で子供の成長を見守る温かい機運の醸成に繋げていきたい。	

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A : KPIに対して実績が100%以上 C : KPIに対して実績が89%～80%
B : " 99%～90% D : " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	結婚・出産・子育て世代へのアンケート調査では、少子化に歯止めをかけるために力を入れるべき取組として「経済的な負担の軽減」との回答が最も多くなっている状況を踏まえ、医療費の助成の対象範囲を中学生まで引き続き実施します。		
事業名	⑮子ども医療費の助成	担当課名	こども未来課
事業内容	経済的負担の軽減を図るため、子ども医療費の助成を「中学卒業まで」引き続き実施します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
保険料診療に係る一部負担金の助成	予算額	127,700,000	144,000,000	144,000,000	164,000,000	166,382,000	199,453,000
	最終予算額		当初予算額	当初予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額
	執行額	127,764,911	133,069,419	141,789,476	160,598,580	162,290,252	195,424,474

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		合計特殊出生率 (5年平均)		1.62 (H29)		⇒		1.68 (R7)	
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)	
	※参考 受給者数 (各年3月31日時点)	KPI	—	—	—	—	—	—	
		実績	5,534人	5,534人	5,613人	5,487人	5,342人	5,418人	
	評価（A～D）		—	—	—	—	—	—	
	※参考 医療費対象件数	KPI	—	—	—	—	—	—	
		実績	69,345件	69,585件	70,647件	73,214件	81,123件	94,436件	
	評価（A～D）		—	—	—	—	—	—	
		KPI							
		実績							
	評価（A～D）								
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、 人数等）を用いて記入して ください。		実績額 195,424,474円 ・子どもたちの疾病、怪我に掛かる医療費を子ども医療で対応することで、子育て世帯の負担軽減を図ることができた。特にインフルエンザ等の流行性の疾病において家計を圧迫する医療費を子ども医療で対応することで、経済的理由により受診を控えることで起きる症状の重症化防止、子どもたちの健康増進に寄与することができた。 ・R7年4月開始の子ども医療費窓口無償化以降、医療費対象件数が令和6年度実績より約13,000件の増加があった。							
取組の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。			課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。					
	医療費助成を行うことで、子どもの疾病の早期発見・治療に効果を上げる一方、医療費が年々増額するという課題がある。			・適正受診への啓発。 ・各機関の提出データに含まれる誤データや重複データ チェック体制強化					
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
・今後も、子ども医療費窓口負担無償化（現物給付）により、経済的理由により受診を控えることによるこどもの病気や怪我の重症化を防ぐとともに、窓口負担を無くすことで、子どもの疾病の早期発見と早期治療促進をより強化する。 ・新制度開始に伴う今後の医療費の推移、国や県下の状況を注視し、高校生の無償化対応について慎重に検討していく。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%

B： " 99%～90% D： " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	変化の激しいこれからの社会を生き抜くため、本市においては、ひおきふるさと教育を推進し、郷土の伝統や風土を生かした「風格ある教育」の推進により、「夢をもち あしたをひらく 心豊かな人づくり」を目指します。		
事業名	⑯ひおきふるさと教育の推進	担当課名	学校教育課
事業内容	本市の伝統文化、人物、自然や産業といった魅力ある素材を学習内容とした授業を展開し、児童生徒がふるさとに対する理解を深め、その学習活動を通して、「礼節」、「郷土愛」、「自然愛」、「奉仕」といった道徳性を身につけられるよう風格ある教育を推進します。		

單位：圓

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
印刷製本・補助金	予算額	2,524,000	2,991,000	2,534,000	2,693,000	3,287,000	2,617,000
		最終予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額
	執行額	1,923,220	2,410,138	2,450,332	2,443,082	2,554,281	2,057,555

基本目標における 数値目標			区分		数値目標				
			合計特殊出生率 （5年平均）		1. 62 (H29)		⇒ 1. 68 (R7)		
重要業績 評価指標状況 （K P I）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）
	子どもが地域の行事に参加した割合（全国学力・学習状況調査） 小学生	県平均 72. 7%	KPI	72. 70%	72. 70%	72. 70%	72. 70%	—	—
			実績	—	80. 0%	73. 1%	75. 0%	—	—
		評価（A～D）	—		A	A	A	—	—
	子どもが地域をよりよくしたいと考える割合（全国学力・学習状況調査） 小学生	県平均 78. 5% (R5)	KPI	—	—	—	—	78. 50%	78. 50%
			実績	—	—	—	—	89. 2%	85. 3%
		評価（A～D）	—		A	A	—	A	A
	子どもが地域の行事に参加した割合（全国学力・学習状況調査） 中学生	県平均 54. 2%	KPI	54. 20%	54. 20%	54. 20%	54. 20%	—	—
			実績	—	53. 6%	43. 5%	44. 9%	—	—
		評価（A～D）	—		B	C	C	—	—
子どもが地域をよりよくしたいと考える割合（全国学力・学習状況調査） 中学生	県平均 66. 3% (R5)	KPI	—	—	—	—	66. 30%	66. 30%	
		実績	—	—	—	—	85. 4%	76. 3%	
	評価（A～D）	—		A	A	—	A	A	
「ひおき学」に係る市民への周知（情報発信）	2回/年	KPI	2回	2回	2回	2回	2回	2回	
		実績	2回	7回	8回	11回	12回	12回	
	評価（A～D）	A		A	A	A	A	A	
当該年度の取組内容と事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。	市内の小学校14校、中学校5校、義務教育学校1校で、ひおきふさと教育を実施し、全校の児童生徒が参加した。「ひおき学」「環境」等の学習ブックを配布し、様々な地域力を生かした内容を取り入れ、児童生徒の道徳性や郷土愛の育成に努めた。また、年度末には「わが町ひおき検定」を行い、全校（20校）で1,197人の児童生徒が受験し、801人（約67％）の児童生徒が合格した。さらに、広報ひおきでは各学校の紹介で、地域と連携した取組を紹介（12回）した。								
取組の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	K P I の数値目標は達成しているが、地域をよりよくしたいと考えている割合は、前年度に比べて減少している。				各学校の「ひおき学」の充実を図り、自分たちが住んでいる地域のよさに改めて気付かせることで、そのよさを発信することができるようにしていく。令和8年度の「ひおきふさと教育」の研究公開（日吉学園11月25日公開予定）で成果を発表する。				

「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性

※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。

自分たちが住んでいる地域について学びを深めるために、小中連携を図りながら9年間を見通した計画を立て実践していくことで、児童生徒が郷土の伝統文化や人物等に対する理解を深め、「礼節」「郷土愛」等の道徳性を身に付けられるように取り組んでいく。

本市では、資源循環や脱炭素の取組など自然環境に配慮した施策を行っているため、地域素材を活用しながら環境教育の充実を図っていくことを検討していく。

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上	C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90%	D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	コミュニケーションの困難さ、障がいの有無、これまでの家庭環境等、さまざまな要因により不登校、ひきこもり、いじめ等へ発展することもあり、子ども支援センターへの相談件数は年々増加傾向にあります。こうした子どもたちや子どもたちを支える保護者からの相談は個々の環境や程度等によりきめ細かい対応が必要であることから、臨床心理士の配置等により支援体制の強化を図るとともに、各種相談機関との連携をはじめ、総合的な相談支援の充実と強化に取り組みます。		
事業名	①子ども支援センターの充実	担当課名	学校教育課
事業内容	・臨床心理士の配置等により子どもたちやその保護者に対するきめ細かい相談支援体制の強化を図ります。 ・各種相談機関との連携をはじめ、総合的な相談支援の充実と強化に取り組みます。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
子ども支援センター事業費 ふれあい教室事業費	予算額	14,724,000	10,023,000	10,847,000	10,838,000	12,295,000	13,316,000
	最終予算額						
	執行額	14,316,890	9,387,216	10,971,859	10,623,122	12,119,481	13,265,819

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		合計特殊出生率 (5年平均)		1.62 (H29)⇒1.68 (R7)					
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	子ども支援センター支 援者に対する研修会の 開催数	—	KPI	1回	1回	1回	1回	1回	1回
			実績	1回	1回	2回	3回	3回	2回
		評価（A～D）		A	A	A	A	A	A
	子ども支援センターの 相談に対する改善割合	80.00%	KPI	80.00%	80.00%	80.00%	80.00%	80.00%	80.00%
			実績	79.66%	77.19%	75.46%	73.02%	72.49%	74.04%
		評価（A～D）		B	B	B	B	B	B
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金 額、人数等）を用いて 記入してください。		講演会は、児童相談所・県こども総合療育センターの精神科医を講師に「愛着と愛情、感情と 行動等」の演題で講演を行った。精神科医から直接話を聞ける機会ということで、例年より2 倍近い参加者であった。（8/30 参加者110人）。指導者研修会は、「子どもの思いをどう傾聴 するか」について学習した（2/26 参加者38人）。相談活動は、教育相談員による学校巡回訪 問（397回）S Wによる学校訪問（560回）臨床心理士によるカウンセリング及びコンサル テーション（186回）等を行い、児童生徒や保護者等の相談に対応してきた。令和7年度の年 間相談者実数は285人で、延べ相談回数は5,024回だった。							
取組 の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ て いる内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	子どもに関する相談としては「不登校」と「性格・生活習 慣」に関するものが全体の7割近くを占めているが、家族 の抱える課題がその一因と考えられるものも増えている。 福祉的な課題等（不適切な養育環境、保護者の教育観、母 子分離できない親子、生活困窮、メンタル面で課題を抱え る保護者など）を抱える家庭については、長期に多方面か ら家族全体を支援していくことが必要である。				不登校の解消に向けては、学校等と連携して家庭訪問等 を行いながら、登校・学習意欲の喚起を図るとともに、家 庭環境の改善に目を向け、福祉サイドからの支援も得て多 方面から長期的に家庭に関われるように努める。 また、要支援家庭への支援については、ケース会議や要対 協実務者会議を通して、こども未来課や福祉課、児童相談 所、警察署等と連携した支援の強化を図る。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
子ども支援センターの総合相談窓口（ワンストップ）としての機能を一層高める。そのため、不登校や発達に特性をもつ児 童生徒には、学校やふれあい教室と連携して、寄り添い型支援やきめ細かい電話相談・家庭訪問に努めていく。また、要保 護・要支援家庭の支援については、こども未来課・福祉課等と連携して、担当者間の情報共有に努めるとともに、個別ケ ース会議等を通して、支援の方向性や具体的な支援分担等について協議していく。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
 A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%
 B： 99%～90% D： 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	通常の移住時における支援に加え、子育て世帯の移住や住宅の新築等に伴う移住（ただし、地元業者の施工に限る。）を引き続き実施することで、子育てしやすい人口減少対策に努めます。 住まいの確保としての空き家の有効活用においては、資産価値の低い空き家について、不動産業者や建築士といった専門家と協議することで地域全体として価値を高められるような仕組みづくりについて検討します。		
事業名	⑱過疎地域移住定住促進事業	担当課名	地域づくり課
事業内容	市外から定住を目的に本市に転入し、補助対象地区に移住した場合、一定要件を満たす方に対して助成し、加えて子育て世帯や地元業者による新築等で移住した場合には助成金上限額を増額します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
24世帯の移住定住者に補助金を交付した。	予算額	20,000,000 最終予算額	21,700,000 最終予算額	20,000,000 最終予算額	18,000,000 最終予算額	16,312,000 最終予算額	9,294,000 最終予算額
	執行額	16,300,000	21,700,000	16,483,000	17,950,000	11,712,000	8,194,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		合計特殊出生率 (5年平均)		1.62 (H29)		⇒		1.68 (R7)	
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	過疎地域移住定住促進 事業利用者のうち移住 者数	63人/年	KPI	74人	74人	74人	74人	74人	74人
			実績	87人	118人	135人	121人	101人	74人
		評価 (A～D)		A	A	A	A	A	A
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字(金額、人 数等)を用いて記入してくだ さい。		令和7年度は、指標である74人(24世帯)の移住があり、定住促進が図られた。							
取組 の 検 証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	移住定住を検討している方々に日置市移住を検討していた ため、より広く情報発信をする必要がある。				今後においても随時事業周知を行う。				
「取組の検証(上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
引き続き情報発信に努め、事業を実施する。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上	C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90%	D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標②「住んでよし ひおき」～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～		
施策の方向性	通常の移住時における支援に加え、子育て世帯の移住や住宅の新築等に伴う移住（ただし、地元業者の施工に限る。）を引き続き実施することで、子育てしやすい人口減少対策に努めます。 住まいの確保としての空き家の有効活用においては、資産価値の低い空き家について、不動産業者や建築士といった専門家と協議することで地域全体として価値を高められるような仕組みづくりについて検討します。		
事業名	⑨空き家改修補助事業	担当課名	地域づくり課
事業内容	市内の空き家等を居住又は簡易宿所として活用する場合、改修・リフォーム費用等の補助を行い、加えて地元業者による施工の場合は、補助上限額を増額します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
16件の空き家改修に補助金を交付した。	予算額	7,000,000	10,000,000	10,000,000	7,178,000	7,364,000	7,237,000
		最終予算額	当初予算額	当初予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額
	執行額	6,927,000	8,602,000	6,624,000	3,892,000	3,874,000	4,062,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		合計特殊出生率 (5年平均)		1.62 (H29)		⇒		1.68 (R7)	
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	空き家改修補助事業利用者のうち移住者数	6人/年	KPI	6人	6人	6人	6人	6人	6人
			実績	10人	25人	25人	16人	14人	10人
		評価 (A～D)		A	A	A	A	A	A
	空き家改修事業のうち補助件数	9件/年	KPI	9件	9件	9件	9件	9件	9件
			実績	16件	28件	28件	16件	15件	16件
		評価 (A～D)		A	A	A	A	A	A
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
当該年度の取組内容と事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。		令和7年度は、指標を超える16件の空き家改修に補助金を交付し、22名が居住（うち移住者10名）しており、空き家の有効活用による定住促進及び地域の活性化が図られた。							
取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	補助件数は前年と横ばい、移住者数は微減だが、KPIは達成しており、着実に空き家の活用が推進されていると考えている。課題は、空き家バンクの登録や移住の問い合わせなどが多く、対応する体制の充実を検討する必要がある。				空き家バンクの運営体制や登録プロセスなどの変更を検討し、今後の円滑な運営がなされるよう取り組む必要がある。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
関連企業への管理委託など、空き家バンク制度の見直しを検討していくこととする。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A : KPIに対して実績が100%以上 C : KPIに対して実績が89%～80%
B : " 99%～90% D : " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標③「訪ねてよし ひおき」～ひおきへの新しい人の流れをつくる～		
施策の方向性	これまでの体験型観光施策を実施するとともに、宿泊業者との連携によるスポーツ合宿誘致の推進や外国人旅行者の受入環境整備等の一環として観光のＩＣＴ化に加え、本市の豊富な隠れた名所、歴史や風土がはぐくんだ伝統行事等の観光資源をより活かした観光施策へと展開するため、中長期的な観光戦略（ビジョン）について検討します。		
事業名	⑭バスツアーの充実	担当課名	商工観光課
事業内容	バスツアーを通じて本市の隠れた観光名所や古民家、季節ごとに楽しむことができる魅力等、多くの人に本市の良さを認知してもらい、交流人口の増加と口コミによる拡散を目指します。		

單位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
ひおき周遊観光事業業務委託	予算額	100,000	1,050,000	500,000	500,000	500,000	600,000
	最終予算額	最終予算額	最終予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額	当初予算額
	執行額	100,000	1,050,000	500,000	500,000	499,950	363,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		観光地・観光施設 年間来訪者数		231万人 (R1)		⇒		252万人 (R7)	
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	域外からのバスツアー受 入れ人数（市観光協会、 ガイド協会の受入れ人 数）	1,745 人/年	KPI	1,756人	1,767人	1,778人	1,789人	1,800人	1,811人
			実績	1,589人	1,750人	1,779人	2,914人	1,302人	未測定
		評価（A～D）		B	B	A	A	D	-
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、 人数等）を用いて記入して ください。	令和6年度の観光関連事業者アンケートの結果や観光協会との協議を踏まえ、観光協会によるバスツアーの造成は見送り、旅行会社等による商品取扱いを目指す方針とした。これに伴い、他事業費を活用し、県内の旅行者24社に対し各種パンフレットやイベントチラシを送付し周知を図った。令和7年度は、旅行会社等による将来的な商品取扱い化を見据え、近年高まるカフェ需要や旅先での行動消費の高い「飲食」に着目し、周遊促進と地域経済の活性化を図ることを目的に、カフェ巡りデジタルスタンプラリーと来店アンケート調査を実施した。その結果、新規顧客の獲得や商品化の基礎データとなる来店ニーズを把握することができた。 【参加店舗数】市内のカフェ21店舗、立ち寄りショップ7店舗 【累計参加人数】801人 【アンケート回答数】205件								
取組の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	事業の実施により、本市におけるカフェ需要や来店ニーズ等を把握することができた一方で、旅行会社等による商品取扱いに向けて、旅行商品を造成・販売する際の具体的なニーズや課題のほか、本市の観光資源に対する評価など、旅行会社側の視点を十分に把握できていない。				旅行会社等を対象としたアンケート調査やヒアリングを実施し、潜在的なニーズや課題を把握する。また、本市が有する自然資源（温泉、吹上浜等）や文化資源（歴史、伝統工芸品等）について、単なる情報発信にとどまらず、体験プログラムの充実や周遊ルート の提案など「体験価値の向上」を図ることで観光素材としての訴求力を強化する。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
令和8年度に実施予定の旅行会社等への調査・ヒアリングの結果をもとに、観光素材のブラッシュアップ、情報提供手法の改善、商談会の開催などを具体的に検討し、旅行会社等による商品取扱いを目指す。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A : KPIに対して実績が100%以上	C : KPIに対して実績が89%～80%
B : " 99%～90%	D : " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標③「訪ねてよし ひおき」～ひおきへの新しい人の流れをつくる～		
施策の方向性	これまでの体験型観光施策を実施するとともに、宿泊業者との連携によるスポーツ合宿誘致の推進や外国人旅行者の受入環境整備等の一環として観光のICT化に加え、本市の豊富な隠れた名所、歴史や風土がはぐくんだ伝統行事等の観光資源をより活かした観光施策へと展開するため、中長期的な観光戦略（ビジョン）について検討します。		
事業名	②スポーツ合宿やスポーツ大会等の誘致	担当課名	商工観光課
事業内容	日置市施設利用促進協会に地域おこし協力隊を配置し、市内体育施設の利用促進及びスポーツを通じた観光・交流人口の拡大を図ります。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
地域おこし協力隊（スポーツツーリズム推進）業務委託	予算額	—	—	—	—	4,488,000 当初予算額	5,127,000 当初予算額
	執行額	—	—	—	—	4,488,000	311,669

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		観光地・観光施設 年間来訪者数		231万人 (R1)		⇒	252万人 (R7)		
重要業績 評価指標 状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	スポーツ合宿・スポーツ 大会誘致件数	136 (R1)	KPI	—	—	—	—	130件	140件
			実績	—	—	—	—	93件	58件
		評価 (A～D)		—	—	—	—	D	D
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
			KPI						
			実績						
		評価 (A～D)							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人 数等）を用いて記入してくだ さい。		・ 合宿等利用団体数及び人数 利用団体数： 64団体、5,719人 （令和6年度： 93団体、3,900人、令和5年度：157団体、10,113人） ・ 令和7年度から「日置市で強くなれ！スポーツ・文化合宿補助金」を施設利用促進協会が創 設して、合宿誘致及び施設利用の促進に寄与している。 ・ 合宿誘致については年3回九州管内の学校を訪問し誘致活動を実施。うち1回は副市長も 同行。							
取組 の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。					課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。			
	令和7年度に新たに合宿補助金を創設したが、制度の周知不足等もあり、合宿利用者が減少した。この周知不足も要 因の一つとして推察されるが、その他、市内には大きな宿 泊施設が少なく個人経営の宿泊施設が多いため、廃業を含 め合宿受入体制が年々厳しくなっている。					今年度は年度当初から予算化を行い、合宿補助金の制度を変 更したことを含めて4月当初より広報を行っている。1つの 宿泊施設で大人数の合宿が受け入れられない場合、日置市施 設利用促進協会と協議しながら複数の宿泊施設で対応するな ど、近隣施設全体で相互支援できるような体制を整える。			
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
大きな宿泊施設の誘致が難しい状況であるため、日置市施設利用促進協会と連携し既存の宿泊施設を有効に活用するために情 報共有を強化しながらスポーツ合宿や大会の誘致活動及び受入れを図っていく。また、今後もガバメントクラウドファンディ ングを活用した資金調達を行い、多くの団体が本市で合宿や大会を実施できる環境を整備していく。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%
B： " 99%～90% D： " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標③「訪ねてよし ひおき」～ひおきへの新しい人の流れをつくる～		
施策の方向性	これまでの体験型観光施策を実施するとともに、宿泊業者との連携によるスポーツ合宿誘致の推進や外国人旅行者の受入環境整備等の一環として観光のICT化に加え、本市の豊富な隠れた名所、歴史や風土がはぐくんだ伝統行事等の観光資源をより活かした観光施策へと展開するため、中長期的な観光戦略（ビジョン）について検討します。		
事業名	②観光PR武将隊プロジェクト	担当課名	商工観光課
事業内容	戦国島津ゆかりの地である本市を武将のまちとしてイメージ戦略を図り、様々なイベント・行事等で甲冑姿の武将隊が観光プロモーションを行うことで、武将として体験できるまちづくりを目指します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
市内外のイベント等でPRを行い、SNS等による情報発信も合わせて行うことで、日置市の認知度向上を図った。また、紙よりいづくりワークショップを行い、参加者に作成した紙よるいを着て妙円寺詣り武者行列と一緒に徳重神社に参拝した。	予算額	10,064,000	12,285,000	4,407,000	3,100,000	2,900,000	2,201,000
	最終予算額		最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額
	執行額	9,793,960	11,234,500	2,917,000	2,730,848	2,719,759	2,044,528

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		観光地・観光施設 年間来訪者数		231万人 (R1)		⇒		252万人 (R7)	
重要業績 評価指標 状況（K P I）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	プロジェクト専用SNSフォロワー数 (Facebook, Instagram, Tw itter)	420 人/年	KPI	420人	450人	500人	500人	500人	500人
			実績	1, 052人	1, 578人	1, 171人	1, 366人	1, 379人	1, 386人
		評価（A～D）		A	A	A	A	A	A
	甲冑体験活動拠点への 来訪者数（来訪者、体 験者及び出張体験参加 者）	1, 080 人/年	KPI	1, 080人	1, 100人	1, 200人	1, 300人	1, 300人	1, 300人
			実績	546人	885人	982人	829人	589人	200人
		評価（A～D）		D	C	C	D	D	D
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と 事業効果 ※ なるべく数字（金額、人 数等）を用いて記入してくだ さい。		●取組内容 ・ラジオ出演（毎月1回）／・県内イベント出演（11回）／・県外イベント出演（4回）／・フラワーゴラッド鹿児島ホームゲーム出演（4回）/取材対応（1回） ●甲冑等着付け体験 ・観光案内所での来訪者：75人／・甲冑等着付及びVR体験者：125人 ●その他：武将隊インスタアカウントについては令和4年10月より観光インスタアカウントとして引継ぎ運用している。 ●活用方法の無かった甲冑を活用すべく、甲冑貸出に関する要綱を定めた。							

事業実施における課題

※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。

課題に対する改善策

※ 課題の対応策を記入してください。

取組の検証	令和6年8月末のよしとし軍議場の閉鎖に伴い、本市が所有している鎧(55領)について、鎧の活用率が低い。また、よしとし軍議場は着付け体験用にリホームされた空間であったが、現在体験を受け入れている観光案内所は事務室であるため、体験にふさわしい歴史的・情緒的な世界観を演出できておらず、来訪者が増えない。貸出しについてもこれまでに3件の実績があるが、未だ広く周知できておらず利用者が少ない現状にある。甲冑着付け体験事業の担い手の募集・育成も課題である。また、武将隊についても初期メンバーで継続している方々の年齢が上がってきていることもあり、職員に頼らない武将隊の運営についても検討していきたい。	甲冑着付け体験の周知が不足している点について、市公式媒体（SNS・HP・デジタルサイネージ等）による直接的な情報発信に加え、利用者自身のSNS投稿による多層的な情報拡散（口コミ効果）を促すとともに、提供を受けた利用写真等を活用した「事例紹介型」の広報を展開することで、具体的な利用イメージを提示し、市民の利用ハードルの引き下げと利用機運の醸成を図る。また、一般向けに武将隊員を募集していく。
-------	--	---

「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性

※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。

令和6年度のよしとし軍議場閉鎖に伴い、甲冑着付け体験者数は減少傾向にあり、これまで構築してきた「戦国島津ゆかりの地」としての地域イメージの希薄化が懸念されている。今後は、従来の武将隊活動や甲冑着付け体験といった職員の人的資源に依存した施策にとどまらず、甲冑着付け体験事業を外部に委託するなど、職員に負荷の少ない甲冑着付け事業の広報・周知活動を強化する。これにより、職員の業務負担軽減を図りつつ、「戦国島津ゆかりの地」としてのブランド力を持続可能な形で確立・推進していく。武将隊員についても一般市民に公募を行い、担い手の育成を図る。

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%

B： " 99%～90% D： " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標③「訪ねてよし ひおき」～ひおきへの新しい人の流れをつくる～		
施策の方向性	これまでの体験型観光施策を実施するとともに、宿泊業者との連携によるスポーツ合宿誘致の推進や外国人旅行者の受入環境整備等の一環として観光のICT化に加え、本市の豊富な隠れた名所、歴史や風土がはぐくんだ伝統行事等の観光資源をより活かした観光施策へと展開するため、中長期的な観光戦略（ビジョン）について検討します。		
事業名	④クラフトマンヴィレッジ美山ツーリズム戦略推進プロジェクト	担当課名	商工観光課
事業内容	本市の特色ある観光資源である薩摩焼を軸とした観光施策を展開し、「クラフトのまち」としてのブランディングと交流人口の拡大を図ります。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R2 (1年目)	R3 (2年目)	R4 (3年目)	R5 (4年目)	R6 (5年目)	R7 (最終年)
委託料 ①EBPM推進支援 ②戦略的な誘客促進 ③伝統技術と文化の継承事業 ④受入環境整備支援 ⑤国際交流促進への支援	予算額	—	—	—	—	13,464,000 当初予算額	12,946,000 当初予算額
	執行額	—	—	—	—	13,420,000	12,946,000

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		観光地・観光施設 年間来訪者数		231万人 (R1)		⇒	252万人 (R7)		
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	美山地区の観光入込客数 (1月1日～12月31日)	27, 978人/年 (R4)	KPI	—	—	—	—	33, 328人	38, 678人
			実績	—	—	—	—	24, 589人	25, 006人
		評価（A～D）		—	—	—	—	D	D
	※参考 美山地域の人口・世帯数 (毎年1月1日基準)	619人 (R4)	KPI	—	—	—	—	621人	623人
			実績	—	—	—	—	623人	610人
		評価（A～D）		—	—	—	—	A	B
	※参考 美山地区内の店舗におけるGoogleビジネスプロフィール（GBP）のオーナー登録数	9 件 (R4)	KPI	—	—	—	—	17件	23件
			実績	—	—	—	—	12件	14件
		評価（A～D）		—	—	—	—	D	D
	※参考 後継者育成プログラム修了者数	0 人 (R4)	KPI	—	—	—	—	—	2人
			実績	—	—	—	—	—	0人
		評価（A～D）		—	—	—	—	—	D
当該年度の取組内容と事業効果		関係者へのヒアリングや実証のほか、主に以下の取り組みを実施した。							
※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。		・県下全域を対象とした行動動態の取得及び分析に係る勉強会（7回） ・観光戦略5本の柱に基づく観光ルート（2本）の検証 ・専門家による商品販売力強化支援（7社） ・テーブルウェアフェスティバルへの出店支援（2社）							

取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。	課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。
	①地区内の活用可能な土地に限りがあり、新たな事業展開や利便性向上の足かせとなっている。 ②陶芸体験において、現地への来訪を伴わない「出張体験」の需要が拡大している。 ③高齢層が営む店舗において、デジタルツールの活用に対する苦手意識が強く、発信力の格差が生じている。 ④薩摩焼及び薩摩焼の産地としての認知度が全国的に低く、潜在顧客層へのアプローチが不十分である。	①住民、事業者、行政、不動産事業者が一体となった連携体制を維持・強化し、空き家・空き地に関する情報共有及び情報発信を推進する。 ②出張体験を入口（タッチポイント）と位置づけ、現地への再訪喚起や、来訪時の観光体験化を促す仕組みを構築する。 ③GBP等の導入メリットを根気強く説明するとともに、観光ポータルサイトの構築により、地域全体の発信力の底上げを図る。 ④窯元自らが産地の魅力を直接PRし、学生をはじめとする若い世代との対話を通じて、中長期的な関係構築に取り組む。

「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。	
人流や決済データ等の客観的根拠に基づき、観光戦略と連動したマーケティング体制を確立させ、地域の「稼ぐ力」の強化を推進する。また、高齢事業者へのGBP等の伴走支援や観光ポータルサイトの公開により、地域全体の情報発信力を底上げし、現地への誘客動線や観光体験化を促進する。さらに、空き家・空き地に関する情報共有・発信や、窯元を中心とした後継者育成など、官民一体の取組みを牽引する中間支援組織の設立を支援する。今後は、新たな観光拠点の整備検討や国際交流による産業波及も見据えながら、持続可能で自走する地域経済循環モデルの構築を目指す。	

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%
B： " 99%～90% D： " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標③「訪ねてよし ひおき」～ひおきへの新しい人の流れをつくる～		
施策の方向性	本市の豊富な歴史と文化を生かした「モノ」から「コト」への体験型の商品を開発することで、関係人口を創出します。さらに、空き家流通促進と関係人口創出のため滞り場所づくりを実施し、本市に継続的に関わる関係人口・人材へと増大させ、本市をフィールドに活躍してもらう場・機会の増大を図ります。		
事業名	㊦ひおきとプロジェクト	担当課名	地域づくり課
事業内容	市外住民とつながり、関係を深めるプロジェクト。関係人口＝ファンととらえ、市公式ファンクラブ「ひおきカメカメ団」を設立。お試し住宅カメハウスを「関係深化」の拠点と位置づけ、運営団体と密な連携を行っている。LR株式会社も事務局として参画している。		

單位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
お試し住宅の運営と地域おこし協力隊の設置。WEB交流の拠点ネオ日置の再構築を実施（国費100%のモデル事業）。	予算額	0	19,098,000	15,626,000	27,216,000	27,436,000	29,183,000
		最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額
	執行額	0	19,098,000	14,694,000	27,138,240	27,231,881	20,067,000

基本目標における 数値目標			区分		数値目標					
			観光地・観光施設 年間来訪者数		231万人 (R1)		⇒ 252万人 (R7)			
重要業績 評価指標 状況（KPI）	KPIの内容		基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	ひおきカメカメ団登録者 数	100 人/年	KPI	50人	100人	100人	100人	100人	100人	100人
			実績	-	89人	150人	122人	88人	94人	
			評価（A～D）	-	C	A	A	C	B	
	お試し居住利用日数	100 日/年	KPI	50日	100日	100日	100日	100日	100日	100日
			実績	-	9日	268日	672日	440日	560日	
			評価（A～D）	-	-	A	A	A	A	
				KPI						
				実績						
			評価（A～D）							
当該年度の実績内容と 事業効果			お試し居住は利用日数で数値化。内訳は、狐火ハウス172日/年、赤いえんとつの家79日/年、みやまと。121日/年、ゆのもと93日/年、黒川どんげえ95日/年。カメカメ団員の登録状況は安定しているが、関係人口の在り方が多様となり、カメカメ団登録者は、移住希望者の割合が多くなってきている。当年度、WEB交流の拠点「ネオ日置」の再構築を行い、本取り組みの関係人口は、Discordサーバー「ネオ日置」の登録者としております。（R8. 3. 31時点、68名）							
現在	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。					課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	KPIについては問題ない。関連する課題としては、ひおきとプロジェクトの新規事業が増え、関係人口の在り方が多様化していること。カメカメ団員の数字だけでなく、ウェブメディア「ひおきと」の読書登録（LINE友だち登録：24,000人超）や、まちのコイン：とっぱの登録者（3,000人超）も加味すると多くの方々が関係人口化していると考えられる。					課題としている各数値はKPI化まではせず、参考数値として管理したいと考える。 今後、検討が必要なことは、令和8年冬、国（総務省）が開始予定の「ふるさと住民登録制度」と「カメカメ団」との関連の整理をする必要があるということ。全国統一のシステムとなる。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。										
「課題に対する改善策」でも明記しているが、令和8年冬、国（総務省）が開始予定の「ふるさと住民登録制度」と「カメカメ団」との関連の整理が必要。現在、ひおきとプロジェクト全体の見直しを検討しているところである。										

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A: KPIに対して実績が100%以上	C: KPIに対して実績が89%～80%
B: " 99%～90%	D: " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標④「ふれあいあふれてよし ひおき」～地域の連携を深め、若者から高齢者まで、安心して暮らせるまちをつくる～		
施策の方向性	少子・高齢化、核家族化の進展により、高齢者の単身世帯や二人暮らし世帯が増加してきています。このような状況を踏まえ、市民生活として欠かせない公共交通の維持を図るため、コミュニティバス事業や乗合タクシー事業を継続します。		
事業名	㊸公共交通の維持・確保	担当課名	地域づくり課
事業内容	市民の移動手段を確保するため、交通不便地域での乗合タクシーやコミュニティバス事業を継続して実施します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
乗合送迎サービス事業（全地域7エリア）を交通事業者に委託し、地域住民の移動手段の確保を行った。	予算額	39,000,000 最終予算額	38,700,000 当初予算額	40,890,000 当初予算額	31,334,000 当初予算額	95,367,000 最終予算額	49,099,984 最終予算額
	執行額	36,417,919	38,133,768	39,713,996	24,850,540	92,190,656	44,499,207

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市民アンケート満足度 （日置市の住みやすさ）		70.5% （R1）		⇒	75.0% （R7）		
重要業績評価指標状況 （KPI）	KPIの内容	基準値	R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）	
	※参考 公共交通の利用者延数	39,382人 （H30）	KPI	—	—	—	—	—	—
		実績	29,472人	27,590人	27,479人	26,427人	24,334人	15,328人	
		評価（A～D）	—	—	—	—	—	—	
			KPI						
		実績							
		評価（A～D）							
			KPI						
		実績							
		評価（A～D）							
当該年度を取組内容と事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。	乗合タクシー利用者延べ数【R7】一人【R6】10,507人（皆減） ・令和6年11月に乗合タクシー運行事業（全地域26路線）を廃止。 コミュニティバス利用者延べ数【R7】一人【R6】9,822人（皆減） ・令和6年12月にコミュニティバス運行事業（伊集院地域）を廃止。 乗合送迎サービス事業【R7】15,328人【R6】4,005人（対前年度比+11,323人） ・令和6年12月から乗合送迎サービス事業（全地域7エリア）を導入しているが、効率的な運行ができていない状況。 ※令和6年度、乗合送迎サービス事業導入に伴い、車両購入やシステム利用料等の初期費用が発生していたため令和7年度執行額が前年度より減少した。								
取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	乗合送迎サービス事業の運行時間や日曜運行エリアの見直しを令和7年12月に行った結果、利用者数は、見直し前の実績（延べ利用者数約1,166人/月）から（約1,335人/月）に増加したが、伊集院地域においては予約が取りづらい状況があるなど制度の見直しが必要。				令和8年度の公共交通計画の策定において、持続可能な公共交通体系の構築に向けた抜本的な見直しを行う。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
令和8年度：日置市地域公共交通計画策定の中で、アンケートやデータ分析、運行シミュレーションに基づいた市公共交通体系の大枠を検討。 令和9年度：具体的な運行計画を決定し事業者間の調整後、令和9年12月から実証運行開始。 令和10年度：本格運行を予定。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%
B： 99%～90% D： 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標④「ふれあいあふれてよし ひおき」～地域の連携を深め、若者から高齢者まで、安心して暮らせるまちをつくる～		
施策の方向性	自らの命、自らのまちは自ら守るという防災の原点に立ったまちづくりを進めるため、防災知識の普及・啓発を推進するとともに、自主防災組織の充実強化を図ります。		
事業名	㊦自主防災組織の充実・強化	担当課名	総務課
事業内容	地域の防災力を充実・強化するため、防災知識の普及啓発など自主防災組織に対する支援を行います。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
各自主防災組織への補助金交付 補助金 2,218 千円 (結成事業補助 1 自治会) (活動推進事業費補助 63組織) (資器材整備事業費補助 3 組織)	予算額	2,650,000	5,650,000	4,650,000	6,127,000	2,225,000	2,225,000
	執行額	2,617,000	3,226,200	1,907,800	3,608,000	2,033,994	2,218,000

基本目標における 数値目標		区分			数値目標				
		市民アンケート満足度 (日置市の住みやすさ)			70.5% (R1)	⇒	75.0% (R7)		
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容	基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	自主防災組織加入率（2%アップ）	87.9% (H30)	KPI	86.10%	88.10%	90.10%	92.10%	94.10%	96.10%
			実績	88.0%	88.1%	89.3%	89.3%	90.3%	90.4%
		評価（A～D）		A	A	B	B	B	B
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度の取組内容と事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。		防災出前講座を28回開催し、延べ802人が参加。グループワーク方式の災害想像ゲーム（DIG）や講演の実施を通して防災に対する啓発と共助の重要性についての周知を行った。また、未結成の自治会には自主防災組織についての説明も行った。その結果、新たに1組織が結成された。一方で、市全体で世帯数が減少する中で、未結成の市街地地区の自治会は世帯数が増加傾向となり、加入率については減少した。 R6：組織数153、加入率90.3% R7：組織数154、加入率90.1%							

取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっており内容について記入してください。	課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。
	自主防災組織の結成率は87.5% (154/176)、加入率は90.1%と高い水準に達しているが、未結成の自治会にはそれぞれ特有の要因があり、進捗は鈍化傾向にある。現状は、高齢化や担い手不足により運営の余裕がない小規模自治会と、世帯数が多く住民間の合意形成や組織化が難しい市街地の大規模自治会へと、課題が二極化していると感じられる。	未結成自治会が抱える個別のボトルネックを把握するため伴走型の支援を行う。小規模地区には近隣との合同結成を促し、大規模地区には防災出前講座の開催等による意識醸成を図るなど、地域の特性に応じた取り組みを推進する。

「取組の検証 (上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。	
今後は高い結成率の維持にも配慮しつつ、未結成自治会の二極化した課題に応じたアウトリーチの個別伴走型の支援に取り組む。手続きの簡素化等についても検討し、担い手不足に悩む自治会に対しては近隣との合同結成により負担を軽減するなど、組織の持続可能性を見据えた結成を促す。一方、合意形成が難しい市街地の自治会には、出前講座による防災意識の醸成など、柔軟なアプローチを展開する。一律の結成促進ではなく、地域の特性や実情に寄り添った支援を展開することで、市全体のさらなる防災体制の強化を図る。なお、行政のリソースも限られている中で個別伴走型支援には多くのリソースが必要になることから、年次的に取り組みを進めていく。	

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
 A: KPIに対して実績が100%以上 C: KPIに対して実績が89%～80%
 B: 99%～90% D: 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標④「ふれあいあふれてよし ひおき」～地域の連携を深め、若者から高齢者まで、安心して暮らせるまちをつくる～		
施策の方向性	将来にわたり持続可能な循環型社会の形成を目指し、家庭からの生ごみを堆肥化する食の循環に努めることで、ごみの減量と再資源化を推進します。		
事業名	㊸生ごみ回収事業	担当課名	市民生活課
事業内容	家庭などから排出される生ごみを回収し、堆肥化することで、環境にやさしい循環型社会を目指します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
生ごみの回収、堆肥化に伴う委託料	予算額	67,504,000 最終予算額	70,067,000 当初予算額	73,186,000 当初予算額	79,968,607 当初予算額	76,190,672 最終予算額	90,561,731 最終予算額
	執行額	66,790,190	61,809,809	73,185,180	70,805,719	67,721,696	82,506,666

基本目標における 数値目標		区分		数値目標					
		市民アンケート満足度 （日置市の住みやすさ）		70.5% （R1）		⇒	75.0% （R7）		
重要業績評価指標 状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）
	生ごみ回収対象世帯数	12,929戸 （H30）	KPI	13,000戸	14,400戸	15,800戸	17,200戸	18,600戸	20,000戸
			実績	13,747戸	13,973戸	14,319戸	14,339戸	14,339戸	14,359戸
		評価（A～D）	A	B	B	C	D	D	
	生ごみ回収量	1,050 t （H30）	KPI	1,174t	1,298t	1,442t	1,569t	1,697t	1,860t
			実績	1,010t	1,027t	1,074t	983t	856t	852 t
		評価（A～D）	C	D	D	D	D	D	
			KPI						
			実績						
		評価（A～D）							
当該年度 の取組内容 と事業効果	SDGSの普及による効果や、市民が燃やさずリサイクルすることを選択し、CO2の排出抑制に理解と協力を頂いている結果が出ている。地域差があるものの、今まで取組んでいない地域からも事業に参加したいなどの話を聞き、説明会等を行いながら参加自治会の増加を推進している。また、CO2削減量は年間約1,700t、事業開始からの生ごみのリサイクル量は約9,200tを達成することができ大きく地球温暖化防止に貢献出来ている。								
取組 の 検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。				
	市民が簡単に継続して環境アクションに参加できる生ごみ回収の趣旨が十分伝わっていない。また、実施に向けた合意形成に至らず、事業着手出来ていない地域が見られる。				出前講座や広報紙等を活用し市民に対して簡単に継続して環境アクションに参加できる生ごみ回収の趣旨を理解してもらえるよう周知しながら課題の改善を図っていきたい。				
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。									
SDGSが普及し、市民の理解と協力が更に大きくなったように感じる。中でも、未だに事業に取り組むことが新たなごみ出しの負担になるなどの消極的な意見も聞くことがあるので、様々な場面を通じて、この事業の良さをアピールしながら目標の達成に向けて取組む必要性を感じる。									

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。
 A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%
 B： " 99%～90% D： " 80%未満

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート
(令和7年度実施分)

基本目標	基本目標④「ふれあいあふれてよし ひおき」～地域の連携を深め、若者から高齢者まで、安心して暮らせるまちをつくる～		
施策の方向性	地域課題に向けては、既存事業や新たな取組の展開に加え、市内にはない域外の様々な特色ある個人や企業等の専門的知識とスキルが活かすことができるよう、多種多様なパートナーとの連携の機会を多く設け課題解決を図ります。		
事業名	③⑩地域課題解決に向けた取組	担当課名	企画課
事業内容	地域課題が多様化する中で、住みやすく安心して暮らせるまちづくりを目指すため、地域内外の個人や企業等の多種多様なパートナーと連携して課題解決を図ります。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
地域共創推進事業費 ①ひおき共創コンソーシアム 「対話会」講師謝金等	予算額	—	—	—	0	0	2,411,000
②THE CARE実証事業業務委託					当初予算額	当初予算額	最終予算額
③日置市つながる学び合いカレッジ負担金	執行額	—	—	—	0	0	2,328,335

基本目標における数値目標			区分		数値目標					
			市民アンケート満足度 （日置市の住みやすさ）		70.5% （R1）		⇒		75.0% （R7）	
重要業績評価指標状況（KPI）	KPIの内容	基準値		R 2 （1年目）	R 3 （2年目）	R 4 （3年目）	R 5 （4年目）	R 6 （5年目）	R 7 （最終年）	
	新たにマッチングを実施し、企業等との地域課題に取り組んだ件数	6 件	KPI	—	—	—	6件	6件	6件	
			実績	—	—	—	10件	13件	10件	
		評価（A～D）	—		—	—	A	A	A	
	地域課題の解決件数	0 件	KPI	—	—	—	1件	1件	1件	
			実績	—	—	—	2件	2件	2件	
		評価（A～D）	—		—	—	A	A	A	
			KPI							
			実績							
		評価（A～D）								
当該年度の取組内容と事業効果 ※ なるべく数字（金額、人数等）を用いて記入してください。	令和7年度は、地域課題の解決に向けて、民間企業等と新たに6件の取組を開始したほか、4件の連携協定を締結した。特に、市内企業がともに学び、働きやすい環境をつくるため、令和7年12月には「ひおき共創コンソーシアム」を設立し、魅力的な職場づくりについて市内企業と共に学びあう取組を開始したほか、関連事業として、企業の皆様と共に学ぶ「生成AIを活用した業務効率化」をテーマにした講座の開催や、安心して働き続けられるよう新しいオンライン相談サービス「THE CARE（ザ・ケア）」の導入など、働き方先進地の実現に向けた取り組みを実施した。 さらに、民間活力を導入し、市有財産である「吹上砂丘荘」の有効活用や民設民営方式のリサイクル施設「資源循環プラザ アクロスひおき」の稼働開始につなげた。									
取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっ ている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。					
	（取組全般）新たな連携による取組を実施しているが、地域課題は複雑で、解決に時間を要する案件がある。 （コンソーシアム）参加企業の抱える課題には、共通するものもあれば個別のものもあり、今後の運営方法を工夫する必要がある。				（取組全般）長期的な視点を持ちつつ、継続して取り組みを実施する必要がある。 （コンソーシアム）参画企業のニーズに応じたスピンオフ企画を実施する。					
「取組の検証（上記）」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方策を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。										
（取組全般）多様化する地域課題の解決に向けて、引き続き他課と課題を共有しながら、新たな企業等とのマッチングや連携を図る。 （コンソーシアム）企業アセスメント（従業員満足度調査）を各企業で実施し、企業の現状を可視化する。また、「未来の求人票」の作成により、2028年度の組織の理想像を可視化する。（2か月に1度、若者や女性との対話会を開催し、働くことに関する価値観やキャリア感を聞く場を設ける。）										

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

第2期日置市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート (令和7年度実施分)

基本目標	基本目標④「ふれあいあふれてよし ひおき」～地域の連携を深め、若者から高齢者まで、安心して暮らせるまちをつくる～		
施策の方向性	これまで空き店舗の利活用として運営してきた日置市男女共同参画センターにおいて、セルフケアや自己肯定感の理解を深めることなど様々な活動の定着が図られている中で、より機能の充実・強化が図られるよう地域間の利用状況格差に配慮したアウトリーチの展開を検討します。		
事業名	③日置市男女共同参画センターの充実・強化	担当課名	地域共創課
事業内容	個人を尊重し、多様な個性を生かす意識の醸成を図り、幅広い年代が気軽に立ち寄れる施設を目指します。		

単位：円

当該年度の予算執行内容	区分	R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
日置市男女共同参画センターの 従事スタッフの人件費、セン ター内で開催される講座等の謝 金、施設維持費、消耗品等	予算額	3,795,000	3,532,000	3,793,000	3,951,000	4,298,000	5,797,000
	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額	最終予算額
	執行額	3,461,759	3,285,463	3,592,528	3,673,671	3,908,432	5,553,120

基本目標における 数値目標			区分		数値目標					
			市民アンケート満足度 (日置市の住みやすさ)		70.5% (R1)		⇒		75.0% (R7)	
重要業績評価指標状況 (KPI)	KPIの内容		基準値		R 2 (1年目)	R 3 (2年目)	R 4 (3年目)	R 5 (4年目)	R 6 (5年目)	R 7 (最終年)
	日置市男女共同参画女性センターの利用者数	1,664人/年	KPI		1,664人	1,664人	1,664人	1,664人	1,664人	1,664人
			実績		1,367人	1,804人	1,773人	2,220人	2,229人	1,516人
			評価 (A～D)		C	A	A	A	A	B
	日置市男女共同参画センターによる講座受講者で「再度利用したいと思う」割合 (アンケート結果)	90.0% (H30)	KPI		90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上
			実績		100.00%	95.00%	96.55%	100.00%	100.00%	95.92%
			評価 (A～D)		A	A	A	A	A	A
				KPI						
				実績						
			評価 (A～D)							
当該年度を取組内容と事業効果 ※ なるべく数字 (金額、人数等) を用いて記入してください。			これまで利用してきた南日本銀行伊集院支店跡地について、隣接する河川拡幅工事に伴い退去及び引越しの必要があったため、日吉地域にある日日novaにてR7. 4. 25移転リニューアル開館した。これまで伊集院地域の利用者が多かったため、移転初年度であるR7年度は、移転に関する周知啓発と日吉地域の住民や団体との関係構築を図り、地域のニーズ等の調査を行った。移転月は約1箇月閉館していたが、その後はこれまで同様、男女共同参画の拠点として、男女共同参画に関する講座や子育て支援に関する各種講座のほか、日常の相談だけでなく男女共同参画専門員や助産師・保健師の在館による相談日を設定し、誰もが気軽に話せる場の提供を行った。 【実績】総利用者1,516人、講座、イベント数56回、講座参加者数689人							
取組の検証	事業実施における課題 ※ KPI達成に向けた課題や問題となっている内容について記入してください。				課題に対する改善策 ※ 課題の対応策を記入してください。					
	移転前の立地は伊集院駅前であったこと、ファミリー層が近隣に多く住んでいたことから親子連れが徒歩で来館する姿が見られたが、移転後の場所は子どもが少ない地域で、かつ車で来館が必須の場所であることから親子連れの来館が減少した。				新年度の入園、入学のタイミングで親子連れに人気がある講座を集中的に開催し、センターのPRを行う。また、市役所内他課との共催講座の開催により、これまでセンターを利用したことのない方への周知を行う。					
「取組の検証 (上記)」を踏まえた今後の方向性 ※ 課題とその改善方を踏まえ、次年度以降事業の見直しなどがあればその内容を記入してください。										
昨年度に引き続き、様々な属性の方が訪れる日日novaの利点を生かし、学び、ふれあい、相談できる場所として引き続き施設の場所、使い方などについて、周知活動を行う。また、市役所内他課や地域の団体等と協力し新しい講座を積極的に企画、性別、年代、職業などに関係なく利用できる施設として認知されるよう活動を行う。										

※ KPIの評価は、以下の達成状況に応じてAからDを記入する。

A：KPIに対して実績が100%以上 C：KPIに対して実績が89%～80%
B： " 99%～90% D： " 80%未満